



岡山から届いた“春”
「桃の花」贈呈

JTA久米島支店は2月26日・27日に、町をはじめ島内16カ所に「桃の花」を贈呈しました。これは、岡山＝那覇線を就航しているJTAが平成8年より毎年行っているもの。西大寺観光協会の協力により、瀬戸内に春を告げる岡山県の県花「桃の花」を沖縄県内各地へ届けています。島内の観光施設や小学校等に贈呈され、各施設等にて華やかな可憐なピンクの花をつけ、人々の目を楽しませました。

久米島の美味を使って創作料理
くるまえば井グランプリ

2月13日、具志川改善センターにてくるまえば井グランプリ、車海老調理講演会が開催されました。講演会では東京八丁堀「天ぶら小野」の2代目店主の志村幸一郎氏による「久米島車海老の価値」、日本ソルトコーディネーター協会代表理事の青山志穂氏による「車海老にあった塩の使い方」と題し講話。井グランプリには4店舗が出品、ホテル部門は久米アイランド、飲食店部門では南島食楽園がそれぞれグランプリに輝きました。



キャリア教育の充実を!

2月27日、西中学校体育館で「夢と学力向上を両立する本当のキャリア教育とは～キャリア教育の誤解を解く～」と題し、長田徹氏を講師に迎えて教育講演会が行われました。キャリア教育の充実による学習意欲の喚起や、発達段階に応じたベクトルの伸ばし方などについて、事例やデータをもとに解説がありました。講演会には、保護者や教員ら約50名が参加し、キャリア教育の真の意味、意義を学びました。



離島だからできる地域福祉
精神医療とバスを学ぶ in 沖縄

2月10日、沖縄県立精和病院にて、町包括支援センターの新垣菜見子さん(精神保健福祉士)が「長期入院者の退院支援～地域定着をめざした地域連携～」の実践報告を行いました。「“離島だからこそできる顔の見える連携、地域性を生かした支援、柔軟に受け入れ・対応ができる地活の強み”を、最大限に活用して支援を行っています」といった力強い発表に、多くの参加者から拍手が沸き起こりました。



サンゴの海を知ろう
さんごの海フェスタin久米島

2月25日、具志川改善センターで「さんごの海フェスタin 久米島」(主催:沖縄県)が行われました。久米島海を守る会(代表:田場俊之氏)がサンゴ礁保全再生地域モデル事業の活動報告や、つちや先生のさんご教室などが行われました。また、会場内では、サンゴに関する展示のほか、サンゴマグネットづくり体験コーナーなどが設置されました。ステージの最後は、県サンゴ礁保全再生応援ソング「1、2、サンゴー!」を歌う「きいやま商店」の音楽ライブがあり、大盛況となりました。



電気をおこしてみよう!
エネルギー教室

沖縄ハワイクリーンエネルギー協力推進事業の一環で、2月23日に仲里小学校と大岳小学校の5年生を対象にエネルギー教室が行われました。琉球大学の清水洋一教授による、電気のしくみや省エネについての講義のあと、発電・省エネ体験ラリーが行われました。風力や火力、手回し発電や自転車発電などで電球にエネルギーを送り点灯させました。また、白熱灯とLEDでのエネルギー量の違いを体感しました。



長い間、パンの製造ありがとう
丸高製パンに感謝状

2月13日、丸高製パン工場(代表者:高里盛清氏)へ久米島町教育委員会(教育長:吉野剛)、久米島学校給食センター運営委員会(委員長:山里昌樹)より感謝状が贈られました。丸高製パン工場は昭和51年6月より学校給食用のパンの製造を行ってききましたが、平成29年3月でその製造を終了しました。これまで永年にわたり、児童・生徒のために、おいしいパンの製造ありがとうございました。



地域行事のさらなる発展を目指して
コミュニティ助成事業

(財)自治総合センターでは、全国自治宝くじの社会貢献広報事業として、コミュニティ活動を推進し、住民福祉の向上を図るため「コミュニティ助成事業」を実施しています。久米島町では平成29年度、この事業を活用して字比嘉に音響機材(放送機器)一式及び会議用テーブル・イス一式の整備を行いました。字比嘉では今後も地域の伝統文化を次世代に継承するとともに、地域行事を活性化させ地域コミュニティの維持と強化を図ります。

